

戦略
1

共生社会を創り出す人材の輩出

戦略達成のストーリー

多様性や共生社会をテーマとした研究を学部横断的に行うプラットフォームを構築し、それに基づく体系的なカリキュラムを整備するとともに、低学年次からのキャリア支援により、共生社会を担う人材を輩出する。

現在の姿

[教育の質] 学生が多様性や共生社会について、体系的なカリキュラムで継続的に学ぶ仕組みが求められている。
[研究・教育] 多様性や共生社会をテーマにした研究を促進させ、学生や社会への還元を拡大していく必要がある。
[キャリア支援] 低学年次からのキャリア支援が求められている。

現在の指標

多様性や共生社会に関する科目の履修率
21.8%

3年次夏期休暇終了までのインターンシップ参加率
67.8%

多様性や共生社会に関する科目数
17件

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|-------------------------------------|--------------------------------|----------------------------|---|-------|
| 多様性や共生社会を考える教育の基盤構築 | | 多様性や共生社会を考える教育の推進と実践 | | |
| 共通教育カリキュラムの質の向上と検証、および新カリキュラムの検討 | | | 新たな共通教育カリキュラムの運用 | |
| 学生支援の内容と体制の整備 | 学内連携による学生支援体制の構築 | DXも活用した学内連携による学生支援 | | |
| 低学年次からのキャリア支援の推進 | | 中間評価・改善 | 低学年次からのキャリア支援の推進 | |
| 大学院研究科の再編・新コース設置の検討 | | | | |
| | 新研究科の設置にかかる検討 | (組織決定を前提として)新研究科の設置準備と認可申請 | | |
| 多様性や共生社会に関する研究の学内プラットフォーム、研究環境の基盤整備 | 「建学の精神」に基づく多様性や共生社会に関する研究の基盤整備 | | 「建学の精神」に基づく多様性や共生社会に関する研究の推進と研究成果の教育への還元、および研究成果に基づく社会貢献の推進 | |

達成後の姿

[教育の質] 多様性や共生社会に関する体系的な学びによって、学生が共生社会を創り出せる素養を身につけた人材に成長している。
[研究・教育] 多様性や共生社会に関する研究基盤とプラットフォームが整備され、学部横断的な研究が促進している。研究成果が体系的なカリキュラムに応用されるとともに、社会への還元も進んでいる。
[キャリア支援] 低学年次からのキャリア支援によって多くの学生が3年次前期までにインターンシップ等の就業体験ができています。

評価指標

多様性や共生社会に関する科目の履修率
100%

3年次夏期休暇終了までのインターンシップ参加率
70%

多様性や共生社会に関する知識が身についた(アンケート)
70%以上

研究成果および社会貢献の成果に関するパブリシティ
10件(年間)

2025.5更新

戦略
2

さまざまな背景を持った学生・教職員が共に学び合えるキャンパスの実現

戦略達成のストーリー

留学生や社会人の受け入れを積極的に推進するとともに、DX構想を進め、時間的、空間的制約を受けない学修の場や学び合う機会を提供する。出自や文化的背景、思考様式の異なる他者と学び合うことで、多様性の理解を促しながら、共生社会で生きていく術を身につけ、新たな知を創造するキャンパスを実現する。

現在の姿

[留学生・社会人] 留学生と社会人の積極的な受け入れ施策が求められている。
[学びの場] 学び合う場として、キャンパスに新たな価値の提供が求められている。たまプラーザキャンパスに新学部が設置され、規模の拡大が見込まれる。
[DX/ICT] 令和3年度から法人全体でDX構想の検討が始まっている。

現在の指標

外国人留学生比率
0.39%

海外協定校数
26校

社会人学生比率
0.6%

海外招聘研究者
8人

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 |
|----------------------------------|--------------------|---------------------------|-------|-------|
| 社会人・外国人留学生の受け入れ方針策定 | 社会人・外国人留学生入試制度の再検討 | 多様な背景を持った学生の積極的な受け入れ | | |
| 大学院におけるリカレントコース、長期履修制度の検討と導入 | | リカレントコース、長期履修制度の検証と改善 | | |
| 国際的な学術交流の推進 | | 学術成果の国際的発信の推進 | | |
| 2学部体制によるたまプラーザキャンパスの活性化 | | | | |
| DXを活用した新しい教育研究への変革 | | | | |
| ラーニングcommons等学生が学びやすい環境の検討・整備 | | DXも活用した新たな学習環境の検討・整備 | | |
| 教育支援・相談に関するニーズ調査および新たな支援方策に関する検討 | | 新たな教育支援・相談体制の確立と、幅広い支援の実施 | | |

達成後の姿

[留学生・社会人] 留学生や社会人の受け入れ方針が策定され、積極的な受け入れによって学生の多様化が進行している。
[学びの場] 学生や教職員の新たな知の獲得や理解、そして知の創造にキャンパスがその役割を果たしている。たまプラーザキャンパスでは2学部体制の完成年度を迎え、両学部の学生交流が活発に行われている。
[DX/ICT] DXの推進によって、リアル空間だけではなくヴァーチャル空間も活用した学び合いの場を提供している。

評価指標

外国人留学生比率
2%

海外協定校数
30校

ラーニングcommons等の利用者
2,500人(全学生の25%)

社会人学生比率
1.5%

海外招聘研究者
10人